



高千穂大学 広報誌



「大学基準に適合」の認定マーク

Quarterly
クォーターリー

高千穂

Vol.35

2012/1



TAKACHIHO UNIVERSITY



Quarterly 高千穂

Vol. 35 | 2012/1

Contents

2	TAKACHIHO Event Report ICE 2011開催	10	TAKACHIHO Report 誌上就職活動体験記&就職活動情報
3	Message 新春 理事長 藤井 耐 年頭のご挨拶 一経験を力にー 学長 成田 博	12	TAKACHIHO History 我が学問を振り返る
4	TAKACHIHO News 中国・中央财经大学における共同研究報告	15	New Books & Review 書籍紹介
5	Seminar Information ゼミナール紹介	16	TAKACHIHO Information 定期試験の注意事項
6	TAKACHIHO Information ゼミ発表会を終えて ～秋学期活動を振り返って～	17	TAKACHIHO Report 平成23年度秋学期学生会総会
7	TAKACHIHO Information 平成23年度ゼミ発表会開催報告 ～ゼミナール連合本部～	18	New Director Profiles 学生会 新役員紹介
8	TAKACHIHO Report 平成24年度入試関連状況報告 平成23年度募集活動報告	20	TAKACHIHO Campus Life 学生会コーナー
		22	TAKACHIHO Information 高千穂同窓会 公認会計士・山本三穂彦さん(大学31回)に聞く 頭で勝負する世界に～趣味はセスナ機の操縦～ 父母の会 編集後記

TAKACHIHO Event Report

International Communication Event 2011開催

平成23年12月17日(土)本学タカチホホールにおいて、「International Communication Event 2011(ICE2011)」が開催されました。

このイベントでは外国語の授業において各クラスから選抜された学生による、英語及び中国語のスピーチコンテストと、IBCS(国際ビジネスコミュニケーション・セミナー)プログラムに参加した学生と台湾東呉大学研修学生による海外研修制度の説明が行われました。

会場は外国語の受講学生を始め、外国語系列の教員や発表学生の父母などが招かれ約140名の出席がありました。スピーチは映画や自分の趣味など身の回りのことを題材にして行われました。審査は発音・声の大きさ・視線などの項目ごとに行われ、成績優秀者は成田学長より表彰され、賞状と副賞が授与されました。

参加した学生は、このイベントを通して語学に対する学習意欲や、海外研修制度への興味が沸いていたようでした。

なお、IBCSプログラムに参加し帰国した学生によるプレゼンテーションが、平成24年1月19日(木)16:40よりタカチホホールにて実施されますので、ぜひ聴講してください。(事前申し込み不要)



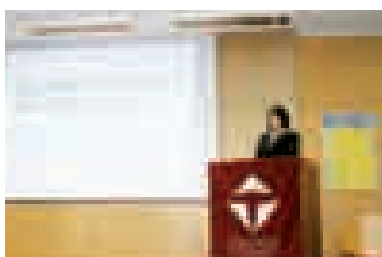
ECB 発表学生とホーン先生、バトラー先生



English スピーチコンテスト



IBCS プログラム参加学生とバトラー先生、木村先生



中国語スピーチコンテスト



中国語発表学生と安本先生



発表学生と指導教員

新春

平成24年(2012年)元旦

理事長

藤井 耐



本学園創設者川田鐵彌先生による「朝礼訓話集」に本学の建学理念をみることができることは、既に御承知のことと思われます。(1) 祖先の祭礼の重視と忠孝、(2) 勤労と体育の重視、(3) 自治の精神と品性の修行、(4) 信義の重視、(5) 言行の慎みと敬意の尊重、(6) 年長者への敬意と幼者の導き、そして、(7) 志操を高くし、事の正確さを守るべきことの7訓です。本学学生(含、園児)・卒業生はもとより、本学に奉職する全ての職員・役員各位は、新年にあたり、改めて創設者の建学の思いを理解・受容し、本学の存続・成長のため自らの職務に専念して頂けますよう切望致します。特に学生諸君には、母校高千穂大学への思いをより一層強めて頂きたいと思います。君達の成長こそが高千穂の成長であることを理解して下さい。

又、御父母の皆様方におかれましては、本年も御健勝にてお過ごしになれますよう心より御祈念申し上げます。

年頭のご挨拶

—経験を力に—

学長

成田 博



新年明けましておめでとうございます。

本年も高千穂大学の学生諸君ならびに高千穂学園・高千穂大学・高千穂幼稚園の関係者の皆様にとって、実り多き一年となりますことをご祈念申し上げます。

残念ながら、平成23年は東日本大震災および原発事故をはじめ、円高による景気停滞、失業率の悪化など、暗いニュースが目立つ一年となりました。本年は、人を笑顔にする明るいニュースや出来事が多い年となることを心から期待したいと思います。

震災や原発事故は、人々の生活を一変させ、価値観を根底から覆すきっかけ、あるいは、これまで当たり前とっていたことを改めて問い直す機会を提供するものとなりました。4年間の大学生活は、専門的知識を習得し、自分なりの価値観を形成する場であるといえますが、学生諸君は、今回の震災や原発事故に関連する報道に触れることによって、多くのことを考え、感じたはずです。その経験はきっと、大学の講義や友人との議論を通じて培うものと同様、皆さんの価値観形成にとっての大きな要因となったものと思います。

大学生も忙しいとはいえ、時間的な余裕はあるはずです。この一年、書物に接することも含め、より多くのことを考え、思いをめぐらせること、そして色々なことを経験することによって、皆さん一人ひとりが多様な「力」を身に付けてください。皆様にとって飛躍の年となりますことをお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

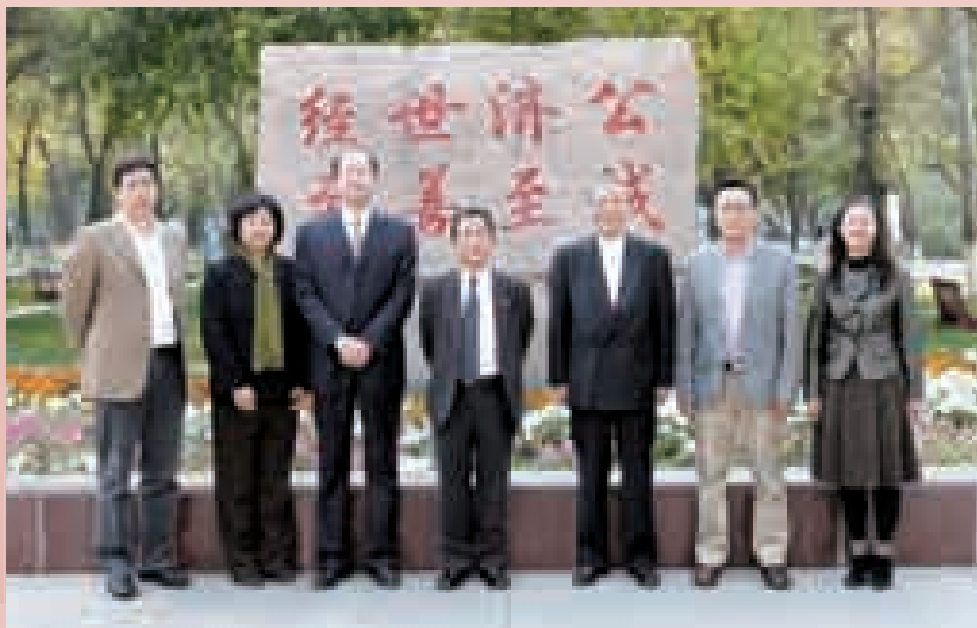
中国・中央財經大学における共同研究報告

中央財經大学と本学・アジア研究交流センターとの共同研究は1998年に開始され、今年で14年目を迎える。第1回目の研究プロジェクトは7年間で完了し、『日本および中国における企業会計・企業課税制度の比較研究』として刊行された。その間、1996年における本学大学院経営学研究科の開設や2001年の経営学部新設と経営学関連の研究体制が強化されるなかで、2004年以降は、新たに「中国の経営管理およびその組織管理」をテーマにしたプロジェクトがスタートした。2004年から2006年の研究成果は、既に『企業成長に関する日中企業比較』（白桃書房）として刊行されている。さらに2007年からは3年間の継続研究として、「グローバル企業における経営戦略と経営課題－特に本国親会社と海外現地子会社間の経営問題を中心に－」がテーマとして設定され、既にその成果は、『アジア研究』No. 11（高千穂大学アジア研究交流センター）に盛り込まれている。

現在、4回目となるプロジェクト「日中間における中小企業研究」が進められており、本年度はその2年目に当たる。今回、平成23年10月12日（水）から16日（日）にかけて、本センターの研究メンバーである藤井耐理事長・教授、新津重幸理事・教授の2名が訪中した。

中央財經大学で12日（水）に開催された研究会では、藤井教授からは「中小企業経営研究にみる具体的分析対象領域－日中比較研究の視点から－」、新津教授からは「日本の市場構造変革から見た中国経済のターニングポイントについて」といった研究発表が行われた。発表後には、中央財經大学の研究メンバーによる質問が相次ぎ、大変活発な意見交換がなされた。また、今回の訪中では、10月13日（木）から15日（土）の3日間の日程で中央財經大学の姉妹校のひとつ新疆ウイグル自治区のウルムチにある新疆ウイグル財經大学へも訪問した。同大学では、学長の歓迎を受けた後、教授陣も含む250名程の聴講者が来場するなか藤井教授による「グローバル経営時代における人材育成」についての講演が行われた。新たに訪問した新疆ウイグル財經大学関係者ならびに長く対応に当たられている李俊生副校長・教授、孫国輝学部長・教授、周衛中大学院管理部副部長・教授らをはじめ中央財經大学の研究メンバーから大変温かいおもてなしを受け、今回の訪中も本学と中央財經大学との交流が一層深まり、有意義な機会となった。

アジア研究交流センター長・教授 恩藏 三穂



ゼミナール紹介

- ①主な研究内容 ②このゼミに入って良かったと思う事や、辛い事は何か ③このゼミの特徴や他のゼミと違う点 ④これからゼミを選択する後輩へのメッセージ

石井 ゼミナール

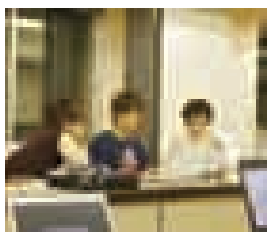
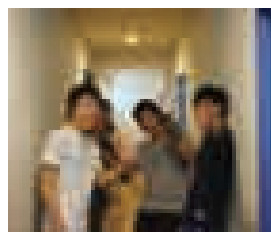
テーマ

ゼミのテーマは企業の経営分析です。数字やデータを使って、私たちの知っている企業を分析していきます。



○ゼミ員数：27名（男：11名・女：16名）

- ① 前半は企業分析の本を基に分析に必要な基礎知識を学び、後半はゼミ発表会に向けて、企業の経営分析を行います。
- ② 石井先生がすごくいい人です。色々なことを知っていて、一人一人を見てくれます。
ゼミ発表の準備で思うように進まなかったり、遅くまで残ったりすることがあります。確かに「大変」だと思う場面はありますが、「辛い」と思ったことはありません。
- ③ 同級生だけではなく先輩後輩で仲の良いところが特徴です。OB、OGの方もよく顔を出してくれて、石井ゼミ一期生、二期生の先輩方との交流もあります。
- ④ 公開ゼミなどの期間を使って、ゼミの雰囲気や自分の目で見てきてください。そして、卒業までがんばれそうだなと思ったら、このゼミを選んでください。



ゼミ 風景

竹内 ゼミナール

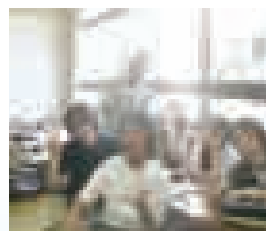
テーマ

第一 流通業とサービス業の経営戦略
第二 製造業の経営戦略



○ゼミ員数：52名（男：37名・女：15名）

- ① 竹内ゼミは主に企業研究をしています。毎年ゼミ内で4班に分かれ、それぞれ研究したい企業を決め毎授業で研究状況や今後の方向性などをプレゼンしています。
- ② 先生がマーケティングの先生なので企業研究をしているうちにマーケティングの知識が身につきます。そして毎回プレゼンをするので緊張しますが人前で堂々と話せるスキルが付きます。なによりゼミの人数が多いので友達がたくさんでき学校行くのが楽しくなります。
- ③ ゼミの時間は、厳しく真面目に取り組めますがコンパなどの時間になればみんなでワイワイしメリハリのあるゼミです。それと先輩と後輩の間に壁がなくて常に良い雰囲気です。先生もゼミの時は厳しいですが何か質問があれば親身に対応してもらえます。
- ④ みんなで悩み、協力し合って一つのことに取り組み完成させていく事は貴重な経験になります。このゼミの環境は人間として成長できること間違いなしです。なにより友達がたくさんでき大学生活が楽しくなります。成長したいみなさんを待っています。



ゼミ 風景

ゼミ発表会を終えて ～秋学期活動を振り返って～

ゼミナール連合本部 委員長
商学部3年
熊坂 翔

本年度のゼミ発表会は11月7日(月)～11日(金)の日程で開催されました。昨年度98パートであった発表パート数は本年度107パートとなり、ゼミ発表会5日間の聴講者数は延べ12,827人となり、発表パート・聴講者ともに大会史上最大となりました。

このように『大会史上記録』を打ち出せたのも各発表パート、先生方、教務委員会、教務1課などの関係者の皆様のご協力があったからこそだと思っています。この場をお借りして今年度のゼミ発表会が無事に終われたことに対してゼミナール連合本部一同心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。

さて、今年の発表を振り返ってみると、今年の特徴でもあります。人間科学部ゼミからの出場が多くなったこと等により、一般聴講者が興味を持ちやすい身近なテーマの発表が多くなり、その結果として、学外関係者(特に、総合科目受講者)の来場が多くなりました。

そんな中、私たちゼミナール連合本部役員は、大会史上最多の107パートを、予め決められた時間で支障なく運営する必要があること等から、様々な困難を想像し何度もリハーサルを行いました。それでも、初めてゼミ発表会の運営に携わる2年生は不安と緊張の中でゼミ発表会を迎えました。初めは緊張の表情を隠しきれない本部役員でしたが、作業にも徐々に慣れ始め、次第に笑顔で皆様に接することができるようになっていました。この時、ゼミナール本部委員長として些細な喜びを感じました。

そのように感じた反面、非常に残念なことに、一部の学生が発表中に私語や携帯電話を使用しているなどの聴講者が見受けられました。来年度はこのような点を注視しつつ、より発表者にとって良い環境を提供するとともに、聴講者にとっても有意義な時間を提供できるように運営サイドとして具体的な方法について今後検討を重ねてゆきたいと思います。

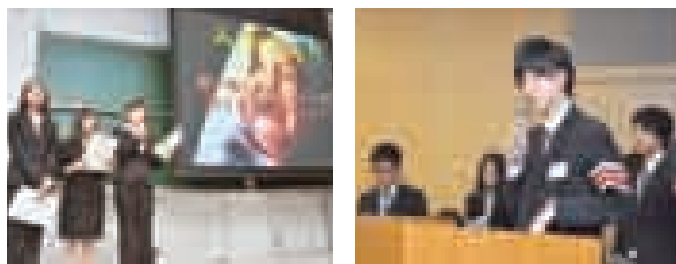
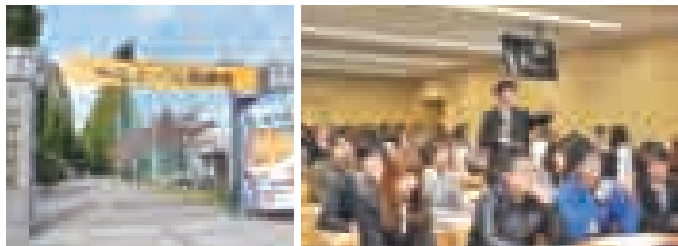
【インナー大会開催報告】

私たちゼミナール連合本部では、ゼミ発表会の運営の他にも、インナー大会の理事加盟校として活動しています。

今年は、平成23年11月13日(日)に中央大学多摩キャンパスにて第51回日本学生経済ゼミナール関東部会、通称インナー大会が開催されました。これは関東圏最大規模の学術大会であり、「討論部門」と「プレゼン部門」と二つの部門に分けて開催しています。

「討論部門」とは他大学の学生と共通のテーマで論文を交換し合い、お互いの意見交換をすることでより深い知識を身につけることができます。「プレゼン部門」は各々の考える新しいビジネスプランや経済モデルなどを、プレゼンテーション形式で発表し競い合うことで、より高い目標に向かって努力することができます。本年度はプレゼン部門に庄司ゼミから3パート、蘭部ゼミから1パート、松崎ゼミから1パートの計5パートが出場しました。これらのゼミはゼミ発表会でも大変人気があり、どの発表も質の高い発表だった印象を受けました。今後も多くのゼミがインナー大会・インター大会に参加していただけるように、ゼミナール連合本部では各ゼミに会議等での情報伝達など、ゼミ生の皆さんへの協力は惜しみません。奮ってご参加ください。

最後となりましたが、ゼミナール連合本部では新2年生以上の専門ゼミに所属している学生を対象に新役員の募集を行っております。本年度のゼミナール連合本部の活動を見て、少しでも興味を持たれた方は、是非7号館2階のゼミナール連合本部室までお越しください。



平成 23 年度ゼミ発表会開催報告 ～ゼミナール連合本部～

今年のゼミ発表会は
『ここ』がすごい！

- その 1 出場パートが**大会史上最多！！**
 その 2 聴講者数が**大会史上最多！！**
 その 3 満足度・理解度調査で「満足している」・「理解できた」の回答が**大会史上最多！！**

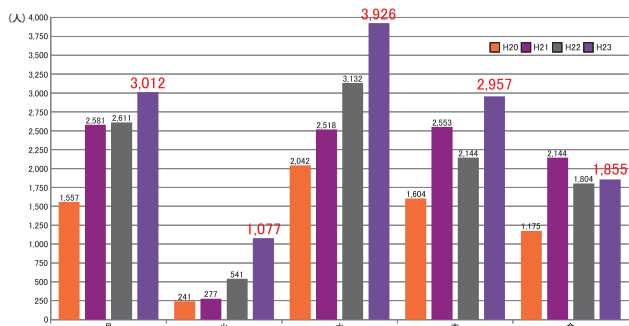
今年度のゼミ発表会は、左述の通り、昨年度の98パートより9パート増大した計107パートの発表会となり、大会史上最多の発表となりました。そのような影響を受け、期間中の聴講者総数は12,827人となり、対前年度比121%というすばらしい結果となりました。

ゼミ発表会では例年、「聴講者アンケート」を実施しております。これは、発表に対する聴講者満足度や理解度、また、発表パートへの質問などを行い、発表パートへ回付するとともに、ゼミナール連合本部として、次年度以降の発表会運営の参考とさせていただきます。

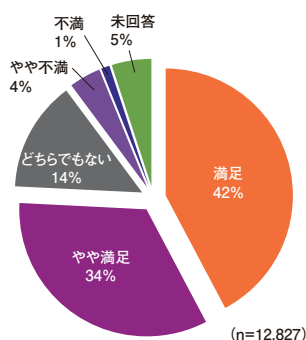
今年度のアンケート結果によると、例年、比較的聴講者が少なかった火曜日に対前年度比199%増となりました。発表の満足度・理解度については、約7割強の方が「満足」、「やや満足」、「理解できた」、「やや理解できた」と回答しており、発表内容が充実していることと併せて、その発表を聴講者が理解していることがわかりました。聴講理由については、約3割強の人が授業の振替で聴講しており、約5割弱の人が、発表パートに何かしらの興味等を持っていることがわかりました。

また、近年の傾向として、1年生が専門ゼミを選択する最終材料としてこのゼミ発表会が大きく影響していることがアンケート等の結果でわかりました。

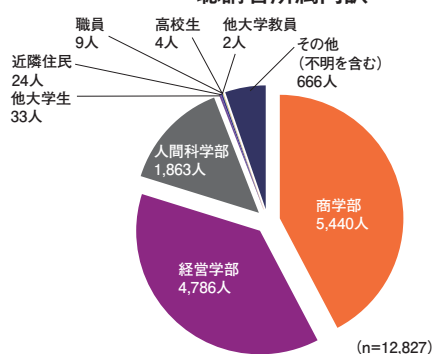
曜日別聴講者数（過去年度比較）



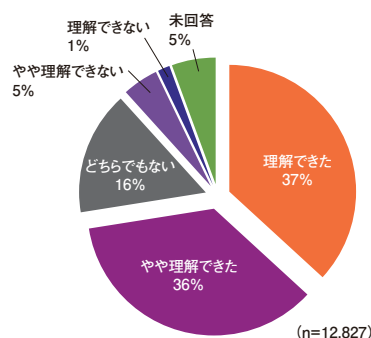
発表内容満足度調査



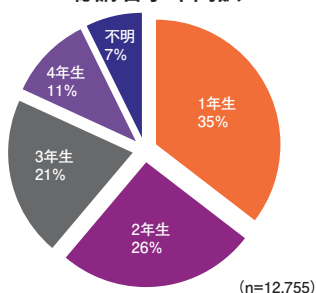
聴講者所属内訳



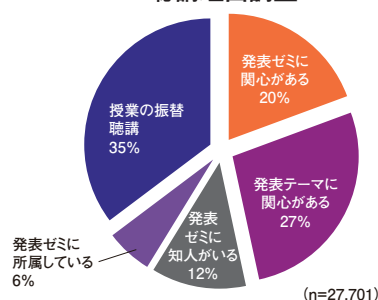
発表内容理解度調査



聴講者学年内訳



聴講理由調査



平成24年度入試関連状況報告

平成24年度入試は、東日本大震災および福島第一原子力発電所事故という未曾有の被害をもたらした状況の中でスタートしました。3月のオープンキャンパス、卒業式の中止、入学式の順延などまだ記憶に新しいものと思います。特に、本学出身の高校教諭が多く、比較的志願者の多い関東以北についてはさまざまな影響が懸念されるところです。4月下旬に完成した新しい大学ガイドブックは、被災地の郵便事情や本学出身の教員や指定校へ連絡するなどして状況を確認しつつ5月下旬に発送しました。

こうしてスタートした本年度入試ですが、入試制度そのものは大きな変更をせずに、出願の機会を増やす形で実施しています。具体的には、AO入試は8月から全8回、公募制推薦入試は11月から全5回実施し、受験生が進路決定した時期に出願できる日程となっています。昨年から新たに設けたAO入試評定型を含め、本学のAO入試の趣旨である、高校での取り組み（学業、クラブ活動、資格取得、生徒会他のさまざまな活動）を評価するという点も認知されてきていることは、同入試制度の出願者の状況から判断できます。

また、一般入試については、基礎科目の英語、国語の2科目で判定する「英語・国語入試」、基礎科目＋得意科目の2科目で判定する「ベスト2教科入試」をそれぞれ前期と後期の計4回実施します。大学入試センター試験の結果を利用する「センター方式」は高得点科目2科目または3科目で判定する方式を4回、センター試験3科目の合計点が本学の指定する基準点以上の者を合格とする「センター方式合格点公表型」を1回実施します。

学部一般入試日程（出願日程順）

入試区分	出願期間	試験日	結果発送日
センター方式Ⅰ期	1月4日～1月13日	個別試験なし	2月6日
英語・国語（前期）	1月10日～1月20日	1月25日	2月1日
ベスト2教科（前期）	1月10日～1月24日	1月31日	2月6日
英語・国語（後期）	1月25日～2月21日	2月24日	2月28日
センター方式Ⅱ期	1月25日～2月16日	個別試験なし	2月25日
センター方式合格点公表型	1月25日～2月16日	個別試験なし	2月25日
ベスト2教科（後期）	2月14日～2月28日	3月4日	3月8日
センター方式Ⅲ期	2月14日～2月28日	個別試験なし	3月8日
センター方式Ⅳ期	3月1日～3月14日	個別試験なし	3月22日

学部外国人特別入試

入試区分	出願期間	試験日	結果発送日
外国人特別入試（一般）	12月5日～1月10日	1月25日	2月1日

大学院入試日程

入試区分	出願期間	試験日	結果発送日
修士課程Ⅱ期	1月25日～2月2日	2月5日	2月8日
博士後期課程			

大学院の入試状況は、修士課程については、これまでに本学学部からの進学希望者を対象とする特別入試を2回（全3回）、一般募集のⅠ期入試（9月）を実施しました。本学学部生を対象とした特別入試は入学金の免除など経済的支援もあり、すでに5名が合格し、Ⅰ期入試と合わせると19名が決定しています。本年度の大学院修士課程Ⅰ・Ⅱ期入試については、口述試験で英語の基礎学力を見ることが新たに追加となったため、特に税理士資格取得希望を進学目的とする志願者には影響がでる可能性があります。

本学学部生を対象とする特別入試は2月に第3回が実施されます。興味のある方は入試課へお問い合わせください。

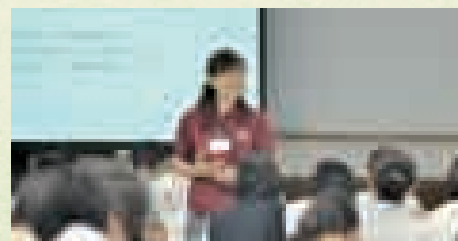
入試シーズンはこれからが本番となり、先の震災による影響、出口の見えない景気の低迷と就職難など懸念要素が多く、全体の志願者が増える要素は少なく予断を許さない状況が続くと思われます。

入試課では学部、大学院のガイドブック、願書の無料配布や大学見学、個別相談に随時対応しています。在学生で先輩や知人のなかに進学先を検討されている方がありましたら、本学をぜひ紹介してください。願書等が必要な場合は入試課へご連絡ください。

最後に、本学は大学入試センター試験の会場となりますので、平成24年1月13日（金）午後6時から1月15日（日）終日の間、入試関係者以外は学内立入禁止となりますのでご協力をお願いいたします。



真剣な受験生



和やかな雰囲気全体の説明



キャンパスツアー

平成23年度募集活動報告

■オープンキャンパス

今年のオープンキャンパスは、東日本大震災の影響により3月末に開催を予定した新3年生対象の回が中止を余儀なくされたものの、6月から12月に合計7回実施しました。特徴として、6月は商業高校生を対象に体験型講義として商学部会計コースの「コンピュータ会計」を実際に端末と会計ソフトを使用して実施しました。参加した高校生には「簿記=電卓」の時代ではないという新たな発見があったと思います。7月はAO入試に向けて「AO入試直前対策講座」として、エントリーシート作成上の留意点や課題作成のポイント等について説明しました。8月の2回は、本学の各学部コースや専攻の学びの理解を目的に、従来の学部ごとの模擬授業を各コース、専攻別に実施しました。参加した方のアンケートからは、より学部の内容が理解できた、高校と大学の授業の違いや新しい知識を得ることの楽しさを体験された様子を伺うことができました。10月は推薦入試に向けて「推薦入試対策講座」として、特に面接試験の留意点を詳細に説明し、参加者が熱心にメモをとる姿が印象的でした。12月は「一般入試対策講座」として、各科目の出題傾向と対策、過去の出願状況と合格状況等を説明。また、天気の良い日のオープンキャンパスではセントラルスクエアの屋上での記念撮影など印象に残る企画も実施されました。

各回のアンケートからは、参加者の多くが満足されたとの結果が得られました。ここ数年の傾向として、時間の有効活用という観点から目的を絞ってオープンキャンパスに参加される方や、ご父母のみあるいはご父母と一緒に参加される方が増えています。また、実際に参加されて、立地や環境、教授陣や学生の様子から本学の良さを知ることができたという意見もあり、オープンキャンパスの重要性が改めて認識されました。

今後は、アンケートの要望事項にあったクラブ活動など学生の活動状況を伝える企画を含め、より多くの方に参加していただけるPRと参加者が本学で学びたいと感じていただけるよう充実した内容を検討したいと考えています。

平成23年度参加者数

開催日	参加者数
6月19日	223
7月10日	237
8月1日	348
8月21日	348
9月17日	159
10月23日	150
12月3日	72
合計	1537

平成23年度模擬授業タイトル

学部	タイトル
商学部	ポジショニングによるブランド構築 価値共創のマーケティングについて 会計情報から何がわかるのか？ 税理士養成プログラムの紹介～会計のプロを目指してみませんか？ 会計と社会 金融資産の運用管理について 保険って何？
経営学部	オペレーションズ・マネジメント入門～経営資源の最適活用を探る 実践経営学のすすめ ～なぜあの企業は儲かるのか？ イノベーションは生物から学べ 企業経営の仕組み・カラクリについて 仕事ができる力（ビジネススキル）ってなんだろう 経営学ってなんだろう？ 経営学を勉強して就職に役立つって本当？
人間科学部	生命と非生命のあいだ～哲学的生命論のおはなし 家族のキズナ～人間科学の視点から いのちの「長さ」と「終わり」 「大人」と「子ども」の境界を探る～「子ども」の定義をめぐって コミュニケーションの現在 公的年金の基礎知識 人生の時刻表

■高校訪問

高校訪問は、5月下旬から7月上旬にかけて関東を中心に専任教員および事務職員で1年生の母校約130校、年間を通じて高校訪問担当職員で約500校を訪問しました。1年生の母校の訪問では、入学後2ヶ月を過ぎた在学生の状況を報告し、送り出した高校の先生方からは好評をいただいています。また、年間を通じて訪問する高校では、前年度の入試の結果や受験生を送っていただいたお礼、新しい大学ガイドブックの紹介、入試制度の変更点やオープンキャンパスの予定等を説明しています。高校訪問の最終目的は、本学の認知と合わせ高校との信頼関係をつくるためのものです。

在学生の皆さんも、夏休みや春休みを利用して、母校の担任の先生に成長した自分や大学生活をぜひ報告してください。皆さんの訪問を歓迎し、後輩の生徒に進路指導する際の重要な情報源となります。

■相談会

相談会は業者がイベント会場やホテルで各大学のブースを設け高校生に自由に参加していただくものと、高校内での進路指導として大学を招き教室や体育館で実施する2種類があります。前者の会場での相談会にはさまざまな大学が参加しているため、高校生にとっては一度に多くの大学の担当者から説明を聞く機会となっています。一方、高校内で実施する相談会は、各学年の進路指導の目的に応じて学問系統や学部別の説明から、模擬面接などより具体的な内容のものとなっています。年度の前半は3年生を対象とし、後半は1、2年生を対象としているのが特徴です。本年度は会場及び高校合わせて約80回参加しています。

■出張講義

出張講義とは、高校に出向いて大学の先生が専門分野に関連する授業を行うことで、特に高校1、2年生にとっては志望分野を検討する際に参考となるものです。また、内容によっては模擬授業を担当した先生の印象が強く、志望校となる場合もあります。授業内容は、高校生に興味や関心をもって理解しやすいように、できるだけ身近なテーマを取り上げ、専門分野からの説明を行うようにしています。本年度は10校（12月末）に参加しました。

- 出張講義テーマ
- ・ 合理的な投資と非合理的な行動
 - ・ サプライチェーン・マネジメント
(ゲーム感覚で経営学を学ぶ)
 - ・ 教師の成長と心理学

■大学見学会

本学では高校との連携事業として大学見学会を随時実施しています。今年は8校約200名が来校しました。大学見学会は高校の希望にオーダーメイドした内容としますが、具体的にはオープンキャンパスと同様に、大学説明、模擬授業、キャンパスツアー、学食体験などを行います。見学した高校生からは、学内や施設がきれいで、静かな環境、駅から近いといった感想が聞かれました。大学見学会は高校生が実際に大学を見学することにより、進学をより実感したものとして理解するための企画です。特に、1・2年生でオープンキャンパスに参加したことのない生徒にとっては、非常に印象が強く残るものと思われます。



就職活動体験記

就職活動は“自分を知る”絶好のチャンス

経営学部 経営学科4年

渡邊 達宏



7月20日「先日の最終面接の結果、採用内定の件でお電話させていただきました。将来的にみて当社の戦力となる人材と見込んで採用内定の連絡をさせていただきました」との電話を頂きました。その時の緊張感は、半年過ぎた今でも忘れることはできません。内々定を頂いたことはすぐゼミナールの笹金光徳教授へ報告すると共にお世話になった皆さんへ連絡をしました。

私が就職活動を始めたのは去年の8月頃です。就職活動を知るために行動を起こし、地元で開催されている合同会社説明会や就職支援アドバイスセミナーへの参加が最初の活動です。就職活動のプログラムには積極的に参加し初対面の方と話す練習や仕事の体験談、今現在の就職活動が置かれている状況などを知るいい機会になりました。しかし、セミナー参加の度ごとに自分がやれること、やりたいことが次第に見えなくなってきた、これに呼応して履歴書の志望理由・自己PRをどのように記入していけばよいのか、に最も悩みました。そんな中、学内で開かれる就職ガイダンスには初回から最後まですべての参加し、就職活動をどのように進めればよいのか、就職戦線を生き残る心構え、悩んでいた履歴書の書き方、ディスカッションの基本的な進め方などの説明を聞き、模擬の体験をすることで、自分の考えが甘かったことに気づかされました。特に、企業人事担当者などの外部講師や現場で活躍しているOB・OGの方によるガイダンスは、より現実的なお話を直接聞くことができ、自らの認識のあまさを気づききっかけとなりました。学内で実施される就活ガイダンスは非常に有意義ですので、是非とも参加をして欲しいと思います。

就職活動がスタートするとほとんどの人はマイナビやリクナビといった就職支援サイトへの登録になるとは思いますが私もその一人です。当初、私はやりたいことが販売員として働きたいという思いから、漠然と有名企業へのエントリーをし続けました。しかしエントリーはできても説明会やセミナーの予約ができず思うように進みませんでした。また、エントリーと並行してSPI対策や自己分析の見直しも行いました。自己分析では「なぜこう思うのか?」「どうして?」と自問自答を繰り返し様々な角度から自分は何をしたいのか考えました。その結果、今まで思いもしなかったことが見えてきたりして新しい自分を発見することができました。

そして20社以上エントリーをし、1、2月に選考まで進んだのは6社でしたが、これらすべての選考に落ちてしまいました。思うように成果はあげられず、就職活動をする気力が徐々になくなってきま

した。そんななか、3月11日、東日本大震災の影響により予定していた選考も中止または延期になり将来への不安から眠れない日々が続きました。

その頃、母親から一枚のパンフレットをもらい地元の製造業を体験できるセミナーが開催されていることを知りました。とにかく「行動する」ということが重要であると思いこのセミナーに参加をし、製造業の楽しさや奥深さ、作業において常に危険が伴うなど、その業界特有の経験を得ることができました。卸売業という一つの狭い視野ではなくもっと視野を広げて就職活動をしよと思ったのもこの時でした。

高千穂大学の就職活動Webシステムに求人ナビという独自の求人情報があります。この頃からこのシステムに目を向け、求人ナビからエントリーをした企業がたくさんあります。実際に内定を頂いた企業も求人ナビから求人情報を閲覧しました。震災から選考の再開まで期間があったため、履歴書の見直しや面接の対策・練習まで就職支援課の方々に協力をして頂き、再度自分を見直すことができました。

今までの面接の経験から「取り繕った人はいらない」ということは理解していたので、自分自身を正直にわかりやすく表現し自信を持って話すことを実践しました。そして7月に内々定を勝ち取ることができました。振り返ってみると去年の8月から翌年の7月までの約1年間はあつという間でした。この間を振り返ると苦しい思い出や辛かったことが多々ありましたが、長いようで短い時間は私の人生の中で自分を振り返ることのできる貴重な時間になったことは確かです。

学生生活も8か月余り、企業の方からも「今しか自由な時間はないから後悔のないようにしなさい」と言われ、アルバイトや遊びそして社会人としての勉強に忙しい毎日ですが1日1日を大切に有意義に過ごしています。

また、私の周りでも内定を貰っていない人がまだ多くいます。最後まで諦めず一人で悩まずゼミの先生や就職支援課に相談することをお勧めします。私は7月に内々定を頂き就職活動を無事に終えることができましたが、この内定は私一人では決して手にすることはできませんでした。特に履歴書の添削や面接練習に力を貸してくださった就職支援課の方には、本当に感謝しております。家族や友人、先生方にも本当に感謝しております。

ありがとうございました。

就職活動情報

平成24年3月卒業予定者のみなさん、最後まで諦めず前進あるのみ

4月より導入した学内就職支援Webシステム“求人NAVI”には今なお求人が届いています。また、就職支援課内設置の掲示板では注目求人票や会社説明会情報の掲示をしておりますので、ぜひお立ち寄りください。相談も随時対応しております。引き続き、採用意欲のある企業を中心に個別企業説明会を実施いたしますので、学内掲示、求人NAVIにてご確認をお願いいたします。

【学内求人数】

- ・4月からの累計 5,010件
- ・11月受付分 468件
- ・12月受付分 (12/1～12/19) 235件

就職活動情報

平成25年3月卒業予定者のみなさん、時節到来！

年が明け、いよいよ平成25年春卒業予定者の就職活動が本格化する時期となりました。経済状況の悪化による採用環境は引き続き厳しい状況にあり、新卒有効求人倍率も低水準となっています。そして今年度は就職氷河期の再来と言われるなか、今なお活動している学生も多く見受けられます。来年度も厳しい環境は続くものと判断せざるを得ません。

しかし、臆する必要はまったくなく、いくら厳しい状況でも学内求人件数は十分にあり、必要な人材を確保できずに悩んでいる企業もあります。これまでに培ってきたみなさんの力を遺憾なく発揮し、自立した社会人への道を切り拓いてください。まさに時節到来です。何かあれば私たち就職委員会・就職支援課がいつでも相談に応じます。

平成25年4月採用向け 高千穂大学学内合同企業説明会

予 約 不 要
入退場自由
履歴書不要

開催日 1月17日 (火)・
2月10日 (金)

集合時間・場所 12:30 CS2階 タカチホホール

実施時間 13:00～16:20

参加予定企業 (順不同・12月現在)

約15～20社の参加企業を予定しておりますが、12/10時点での決定分のみ掲載しました。
参加決定企業は“学内掲示”“求人NAVI”にてご確認ください。

1月17日 (火)開催

- (株)セブン&アイフードシステムズ
- (株)東京鋳兼
- (株)トゥモローランド
- 新日本法規出版(株)
- 神奈川トヨタ(株)
- 東京総合警備保障(株)
- 日本年金機構本部
- (株)東計電算
- (株)近宣
- (株)廣瀬商会
- (株)文化堂
- ポラス(株)
- ヒロセ電子システムズ(株)
- (株)マルゼン
- ワタミグループ

2月10日 (金)開催

- (株)映像センター
- (株)小田急リゾート
- 三和テッキ(株)
- (株)東京めいらく
- (株)NaITO
- (株)サムソン
- (株)江東微生物研究所
- (株)日産サティオ埼玉
- 東京地下鉄(株)
- 明和地所(株)
- (株)叙々苑
- 楠原輸送(株)
- 西尾レントオール(株)
- (株)オザム
- 【福祉の仕事相談コーナー】
東京都社会福祉協議会



我が学問を振り返る

退職予定教授

「銀行マンから大学教授へ」

大学では館龍一郎先生のゼミで金融論を学んでいました。4年のとき非常勤講師で東京銀行の堀江薫雄頭取が国際金融論を開講されました。堀江頭取は実務家でありながら優れた著作を多数発表されたエコノミストでもありました。

最後の講義でご自身の足跡を披瀝され、次のように述べられました。「忙しい勤務を終えた後、週一冊の学術書を読むことを続けて来たことが現在の私を作った。」この一言が大学で学んだ最大の啓示でした。銀行就職後堀江頭取の言葉を守り続けてきました。その後銀行の課長研修で新日鉄の役員で人事畑出身の方から大脳生理学の話を聴きました。話の主旨は、脳は筋肉と同じように鍛えれば鍛えるほど発達するというものでした。この二つの話は高千穂大学の授業でもお話ししてきたところです。

私の入行した日本開発銀行（現日本政策投資銀行）は若いうちから官庁や研究機関に出向させられます。最初は設立されたばかりの地域振興整備公団（現都市再生機構）へ出向しました。初代総裁平田敬一郎氏が元開発銀行総裁で、総裁直属の企画室でニュータウン造りの地域選定や委託した調査のチェックなどする傍ら総裁から命じられ職員のための図書館を創設し初代館長も兼務しました。

銀行に戻り貸付、審査、外国債発行業務など担当した後、成長理論で有名な下村修博士の創設された銀行内組織の設備投資研究所に配属されたこともその後の人生を変えました。ここでの業務は大学教授、大学院生とともに調査研究を行うことでした。テーマも自分で選べ、調査のため自由に海外出張も行け、出勤時間も自由という素晴らしい環境で1985年ごろまだ高価だったパソコンも備えてくれました。

この間米国ワシントンDCにあるブルッキングス研究所にも派遣されました。同研究所では日本でも知られたトレザイスさんなどと良くお話をしましたし、今テレビに時々出演している寺島実郎氏も一緒にいました。

設備投資研究所が何故人生を変えたかということ、ここで第2の師となる宇沢弘文東大教授（文化勲章受章者）にお会いしたからです。研究所の顧問であった宇沢先生

商学部・大学院経営学研究科教授

内堀 節夫

在職期間：21年

担当科目：金融総論／証券論／

金融工学特講／金融工学演習



は週に3～4日は研究所に来られ自らレクチャーされたり、研究員の発表を皆と聞きながら指導されました。それが終わると必ずビールを飲みに行くのが恒例で、余りに頻繁なので研究員が辟易している中、現在法政大学の教授をしている柳沼、堀内、国則と私はいつでもお付き合いをしていました。ビールを飲みながら海外の著名な経済学者との交流や、東大経済学部の教授たちの行跡を話されるのですが、これが誠に面白く貴重な話でした。宇沢先生は私たちに是非大学に転身するように進められ、その結果当時研究所にいた研究員は銀行で役員になる道を放棄しほとんども、その後大学教授になって行きました。

ここでまた出向することになり、日本証券アナリスト協会へ行きました。日銀出身の由良玄太郎氏が専務理事をされており、開銀の岡副総裁（日銀出身）に助っ人の要請があったためです。当時協会は日米のアナリスト資格の共通化を企画されていたため米国側との交渉と証券理論の研究調査が可能な人材ということで白羽の矢が当たったということです。ここまで金融理論一筋であった私にとって証券投資理論はまったく未知の世界でしたが、横浜国大の青山護（故人）、東大の若杉敬明、野村證券の寺田徳さん達を招き勉強会を開きました。証券会社勤務のアナリストも交えた勉強会ですから業務を終えた後の勉強会でした。ここでの経験がその後大きく生きてきます。

研究所に戻ると筑波大学で2年間限定で証券投資理論を教えないかという話が持ち上がりました。自信はありませんでしたがアナリスト協会の通信教育のテキストを使えば何とかなんと応募したところ採用となりました。2年間の国家公務員の生活でした。東京からの通勤時間の長さから週2泊する擬似単身赴任は耐えられず残留の申出も断り銀行に戻ったところで高千穂商科大学からの教員募集の話が舞い込み、通勤時間25分は魅力的で即決断しました。その後21年勤務させていただいた高千穂大学は銀行員生活と比べると精神的にも肉体的にも快適で70歳まで無事勤めることが出来ました。大学生活は宇沢先生の言葉どおりでした。宇沢先生がよく話しかけられた言葉は「内堀君、乞食と大学教授は3日やったら止められないよ。」というものでした。

我が学問を振り返る

退職予定教授

「梅の木に梅の花咲く…」

“障がいを持たずに生まれる”通常、親はそう思い、願い、子どもの誕生を迎えるでしょう。しかし、私の母は私が障がい児として生まれるものと思い込んでいました。

1945年敗戦の年に私は生まれました。母は妊婦でありながら、ほとんど食べる物がなく、外国で“爪のない子が生まれた”と聞き、自分の子もそうに違いないと思ったそうです。が、私は一応、普通に生まれました。

その話を幼い頃から聞くにつけ、“元々障がい児として生まれるはずなのに、タマタマ普通に生まれた”という自己認識が私の中に育っていきました。したがって、“障がい児”は違和感なく私自身のように感じていました。また、体が弱く、蚊に刺された後も皮膚が変化してしまうため病院に通ったのですが周りの視線の冷やかさに、障がい児はもっと大変だろうなと思ったものでした。

高校3年進路を考える時、医学部に進んで障がいを根本から治す仕事に就きたかったのですが、残念ながら理数科が苦手ととても無理だなあとぼんやりしていました。でも、それは真面目に勉強しなかったため一生懸命授業を受ければ分かるかもしれないと思い直し、居住まいを正す思いで臨んだ物理の最後の授業でした。“雪は等速運動をする”をテーマに伊藤先生は「それは数式で現わされる」と黒板に書かれました。でも全く理解不能…。教室の大きな窓の外に



ベルトの好きなT君と

目をやると、くしくも牡丹雪がシンシンと降っていました。なるほど等速運動…。

がっかりしている私の耳に先生の言葉が飛び込んできました。「“梅の木に梅の花咲く、何の不思議なけれど”という歌がある。“何の不思議もない”で終わったのでは、科

人間科学部教授

尾関 夢子

在職期間：25年

担当科目：教育心理学／発達心理学／
教育相談の基礎／生徒指導論／
総合演習 A

学は生まれない。“なけれど”に引っかかるところに科学が生まれる。その心が分れば科学に携われる。」長身で紺色の背広姿の先生は教壇から身を乗り出すようにして言われました。

“これならわかる!”私は光を見る思いでした。私は少し方向性を変えて心理学という科学の立場から障がいの問題に取り組むことにしたのです。一つの言葉との出会い、一人の先生との出会いが、私を学問の道にいざなってくれました。

その後、大学で発達保障論の田中昌人、杉恵先生と出会い“障がい児の発達権”という視点を学び、“障がい児の発達への関わり方”が初めて見えてきた感動は忘れられません。また、スイスのユング研究所から帰国されたばかりの河合隼雄先生のカウンセリング論は、先生の語り口と共に興味深く新しい幕の開く思いでした。

大学院修了後は、平安女学院短大どんぐり教室において障がい児の保育と研究に携わる機会を頂きました。高千穂大学においてもアットホームな雰囲気の中で、多くの学生達が私の若い頃のような先生との出会いを経験している事と思います。私も授業の終りに毎回書いてもらった感想や質問から考えるヒントをもらうなど楽しい出会いがありました。また、多くの教職員の皆様のお陰で今日の日まで勤めさせて頂いたことは、この上もない幸せであったという思いを胸に、深く感謝申し上げる次第です。高千穂大学の今後のご発展を心より祈念しております。本当にありがとうございました。



平安女学院短大どんぐり教室

我が学問を振り返る

退職予定教授

「私の学問遍歴」

7年ほど前であったか、定年退職を前にした先生方が同様のテーマで書かれていたのを思い出す。その時は、定年まで勤めると、このような手順も踏まなければならないのかとぼんやり思ったものであるが、とうとうその時が来てしまった。個人の研究史は論文等を見れば判ることなので、改めて書くまでもないとは思いますが、せっかくなので、思い出しながらいくつかを拾ってみたい。

最初に書いた論文は修士論文である。正当性や権威という用語が政治学においてどのように使用され内容とされてきたかを、主要な政治理論家達の著作から抽出し、それぞれの論者が含意させている用語の意味を検討し、政治現象との関連を論じたものであったが、修士時代にとらわれていたのは、むしろ、副題とした「分析的理解のための基本点の考察」の方であった。学部で4年生になる前後から修士課程の2年間にこだわっていたのは、社会現象、あるいはもっと広く言えば、物事を認識するとはどのようなことであり、どのように捉えればよいかということであった。そのため、専ら存在論や認識論に関する著書を読み、悩み、考えていたのを思い出す。

博士課程期間とその後の数年間は社会科学論を放浪した。政治学を専攻していたのであるから、本来であれば、その方面の研究をし、成果を上げなければお先真っ暗なはずであるが、どこか間の抜けたところがあったらしく、そのようなことには全く無頓着であった。修士論文で正当性や権威を題材にし、論の焦点を、支配や支配者の方ではなく、服従者の行為に置いたため、人々の社会的行為を把握することに興味を懐くようになり、人間の社会的行為やその結果としての社会とは何かが主な関心事となっていた。このことを知るためには、当時の政治学だけでは十分でなく、広い意味の社会学あるいは社会科学がこのことをどのように捉えてきたかを知る必要があると感じ、19世紀から20世紀初頭にかけての社会理論家、例えば、マルクス、デュルケム、ジンメル、ヴェーバー、パーソンズ等の著作を読み漁った。

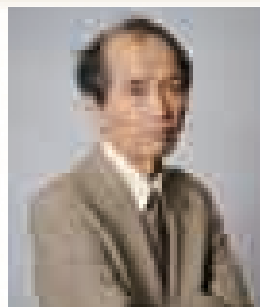
政治学研究に本格的に入ったのは本学に勤務する直前あたりからである。大学では政治学科、大学院では政治経済学研究科（政治学専攻）で学んでいたのであるから、日常、友人達と政治について論じ、断片的には、政治学固有の手法にしたがって論じたりはしていたのであるが、先

経営学部教授

町田 博

在職期間：37年

担当科目：政治学／地域開発論



のように、社会科学方法論、社会行為論、社会構造論に迷い込んでいたため、政治学にすんなりとは進めなかった。そのような中でマッキーヴァー理論と出会うことになる。マッキーヴァー理論は、関心論から出発し、コミュニティ論とパーソナリティ論を軸に社会学と政治学の両領域を視野に入れた理論である。また、かれは多元的国家論の代表的人物の一人として知られており、社会理論を視野に入れた政治学の手掛かりが掴めるのではないかと思うようになった。そして、マッキーヴァー理論を理解するためにも他の多元的国家論者や政治的多元主義者達の著作を読むことになる。マッキーヴァー理論との出会いやかれの理論特性と政治的多元主義については拙著『マッキーヴァーの政治理論と政治的多元主義』でまとめている。

政治的多元主義やそれと並行して時折読んでいた民主主義論の検討を行なっているうちに、リベラル・デモクラシー理論の検討を行って見たいと思うようになった。その際、マッキーヴァー理論は、かれの活躍した時代の時代的視点の限界やかれ自身の理論性向もあって、そのままでは現代に適用しがたいが、個人と基礎社会、基礎社会の特性、基礎社会と政治や国家等の枠組みは若干修正すれば、現代でも理論枠として利用可能であり、それらに別の要素を加えた視点と論点でリベラル・デモクラシー論を検討してみるのも面白いのではないかと考えるようになり、そのような角度からロックやハイエクを含む幾人かの理論家達を取り上げ、検討を試みてみた。

以上は政治学に関するものであるけれども、本学で政治学を担当する前に、他大学で地域開発論を担当することになり、本学でも担当することになった。当初、この分野については全く素人であったし、当時、教科書的なものもなかったため、長年、試行錯誤を繰り返した。そして、自分なりの地域開発論を著書としてまとめたのは25年も過ぎてからである。また、地域問題に関係したことが縁で、イギリスの地域政策の研究や本学総合研究所のプロジェクト絡みで日本の地方制度の研究も行なう機会も得た。

このように見てくると、研究のきっかけは、人生への戸惑い、何かへのこだわり、研究上の流れ、就職上のいきさつなど様々な理由が絡んでいたことが分かるが、学問的遍歴をしてきたのかなという印象が強い。

図書館員が選んだこの3冊



『河北新報のいちばん長い日 ―震災下の地元紙』

河北新報社 著

【文藝春秋・1,399円】(2011年10月30日 出版)

ISBN: 9784163744704

肉親を喪いながらも取材を続けた総局長、殉職した販売店主、倒壊した組版システム、被災者から浴びた罵声、避難所から出勤する記者、それでも新聞をつくり続けた。被災者に寄り添った社員たちの全記録。2011年度新聞協会賞受賞。

『わたしを宇宙に連れてって ―無重力生活への挑戦』

原書名: Packing for Mars: The curious science of life in the void
(Roach, Mary)

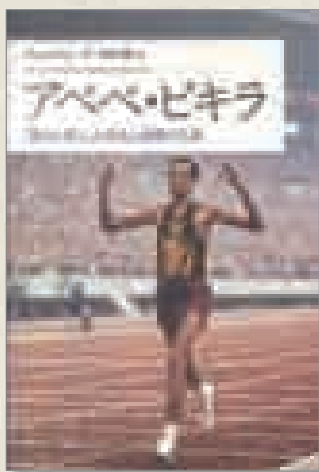
ローチ, メアリー 著 (Roach, Mary)

池田 真紀子 訳

【NHK出版・2,100円】(2011年10月30日 出版)

ISBN: 9784140815083

筑波宇宙センターの宇宙飛行士採用試験から、スペースシャトルの訓練用トイレまで、口の堅いことで有名な宇宙開発研究機関の扉をこじ開けて突撃サイエンス・ジャーナリストがわたしたちを宇宙の旅に連れ出してくれる。アメリカで最高にPOPなサイエンス・ノンフィクション。



『アベベ・ビキラ―

「裸足の哲人」の栄光と悲劇の生涯』

原書名: BIKILA: Ethiopia's Barefoot Olympian (Judah, Tim)

ジューダ, ティム 著 (Judah, Tim)

秋山 勝 訳

【草思社・1,890円】(2011年8月31日 出版)

ISBN: 9784794218483

1964年、東京オリンピックのマラソン競技で、史上初の二連覇を成し遂げたアベベ選手。4年前のローマ大会を裸足で走って優勝したこの無名のエチオピア人は、その寡黙で禁欲的な姿勢から「裸足の哲人」と呼ばれ、いまなお多くの尊敬を集めている。

エチオピア最後の皇帝ハイレ・セラシエの親衛隊兵士でもあるアベベは、スウェーデン人トレーナー・ニスカネンの献身的な指導のもと、次のメキシコ大会で前人未到の三連覇を目指す。

だが彼は途中で棄権する。哲人に何が起こったのか…。

輝かしい栄光に満ちた前半生と、悲劇的な躓きの果てに車椅子に身を預けるほかない後半生。

あまりに劇的なその生涯を追う。

引用: 紀伊國屋書店BookWeb

定期試験の注意事項

教務部教務1課

秋学期定期試験が平成24年1月24日(火)より実施されます。

●定期試験の日程は1号館前に掲示されています(T-navi(学生ポータルサイト)においても配信済みです)

以下の7点は特に注意する項目です。試験前にもう1度「試験規程」を読み確認してください(掲示板・履修要項に記載されています)。なお**不正行為は厳正に処罰されます**。1回の不正行為のために、卒業が遅れたり、場合によっては不可能になる可能性もあります。十分に準備をして定期試験に臨むようにしてください。

試験時間の厳守について

試験規程では開始5分前までに着席することとなっています。試験期間中のみ試験開始5分前に予鈴(チャイム)を鳴らします。試験開始後の試験場への入室は理由の如何を問わず認められませんので十分注意してください。突然の事故による交通機関の遅れも予想されますので、通学時間に余裕を持って試験に臨んでください。

試験期間 平成24年1月24日(火)～2月1日(水)

定期試験 実施時間割

- 1時限目 9:30～10:30
- 2時限目 10:50～11:50
- 3時限目 12:30～13:30
- 4時限目 13:50～14:50
- 5時限目 15:10～16:10
- 6時限目 16:30～17:30
- 7時限目 17:50～18:50

試験教室についての注意

履修者多数の科目、簿記Ⅰ/Ⅱ・経済学B等は学部や担当教員別に試験教室を指示しますので、必ず確認してください。

学生証の提示

試験を受験する際は必ず机上に「学生証」を提示しなければなりません。「学生証」を持っていない場合は受験することができません。当日、「学生証」を忘れた場合は、試験開始時刻前に限り「定期試験受験許可証」を教務1課にて発行します。現在「学生証」を紛失している学生は、速やかに学生課に届け出て再発行の手続きを行ってください(当日の再発行はできませんので注意してください)。

携帯電話等の扱いについて

試験教室では携帯電話等の使用を一切禁止します(時計・電卓としての使用も禁止)。試験教室では必ず電源を切り机上にも置かないでください。携帯電話等を見たり触れたりした場合は不正行為とみなされますので十分注意してください。

持込み資料について

試験では科目担当教員から指示されたもの(問題用紙に記載)以外の持込みは不正行為とみなされます。また、ノート・教科書等のコピー使用については「コピー可」の指示がある場合に限り持込むことができます(なお、各自がパソコン等で作成したノートや資料の持込みについては科目担当教員に確認してください)。また**本学図書館の図書は持込み禁止**ですので注意してください。

氏名等の記入について

答案用紙には必ず**ボールペン**で氏名・学籍番号を記入してください。毎年無記名答案が数枚見受けられますが、そうした無記名答案は無効となります。答案作成の際は最初に学籍番号・氏名等を必ず記入してください。

追試験について

追試験の申請は「やむを得ない事由」により定期試験を受験できなかった場合に限り、受付けます。当該科目の定期試験日より前または定期試験日から3日以内に、教務1課にて申請してください。なお、追試験の申請には事由の証明書(遅延証明書や診断書など)が必要となるので注意してください。

※追試験期間 2月2日(木)～8日(水)

レポート提出について

科目によっては定期試験の代わりに「レポート提出」を課す科目もあります。提出期限の日時を掲示板にて確認してください。提出先はセントラル・スクエア1Fインフォメーションです。

情報メディアセンターからのお知らせ

コンピュータ室の開放について

1～3月のコンピュータ室開放は次の通りです。2/2～3/30の期間は、通常と開放時間の異なる特別開放となります。

期間	コンピュータ室 開放時間
1/10(火)～2/1(水)の月～金曜日	9:00～20:00
1/10(火)～2/1(水)の土曜日	9:00～15:00
2/2(木)～3/30(金)の月～金曜日	10:00～16:00

注意)

- 大学入試センター試験準備のため、1/13(金)の開放は16:10で終了します。
- 入学試験等実施のため、1/14(土)・1/31(火)・2/24(金)の開放はありません。
- 開放日時は変更になる場合があります。最新情報は情報メディアセンターのホームページで確認してください。

機器の貸出について

1～3月のノートパソコンやビデオカメラなどの機器貸出は次の通りです。2/1～3/24の期間は、通常とは貸出日数の異なる特別貸出となります。

貸出日	貸出日数または返却期限
1/10(火)～1/31(火)	貸出日から1週間以内
2/1(水)～3/16(金)	貸出日から2週間以内
3/17(土)～3/24(土)	3/31(土)
3/26(月)～	貸出日から1週間以内

注意)

- 貸出には「情報メディアセンター利用者票」が必要です。
- 最終学年の学生は、所定の返却日がそれ以降であっても3/19(月)までに返却してください。
- 借受けた機器を紛失や損傷した場合は弁償となります。機器の取扱いには充分ご注意ください。

平成23年度

秋学期 学友会総会

平成23年度 秋学期学友会総会実施報告

10月26日（水）に平成23年度秋学期学友会総会が行われました。学友会顧問の成田博学長の挨拶、学友会会長挨拶に続き春学期決算報告、秋学期予算案、学友会新役員の承認、学友会新会長就任の挨拶が行われました。

平成二十三年度 秋学期

学友会総会

式次第

一、開会の辞

一、学友会顧問挨拶

一、学友会会長挨拶

一、平成二十三年度春学期決算報告

一、監査報告

一、質疑応答

一、承認

一、平成二十三年度秋学期予算案

一、質疑応答

一、承認

一、学友会新役員紹介

一、承認

一、新会長挨拶

一、閉会の辞



学友会活動を振り返って



第15代学友会会長
渡辺 一充

私が学友会会長になってから早一年が過ぎ、昨年の10月末に任期を満了しました。今思い返してみると、会長として過ごした一年は多くの経験をする事ができ、自分を少なからず成長させてくれた一年だったと思います。

会長になって最初の仕事は秋学期学友会総会の準備でした。前年に先輩方が準備しているのを見ていたとはいえ、どんな手順で何をすればいいのか分からず、とても大変な思いをしたことを覚えています。その次にミルバスタカチホ防犯パトロール隊発足に向けての活動。これは私の代での新たな取り組みであり、この団体は大学周辺のパトロールを主な活動とするものです。高井戸警察署からの要請で発足することになったのですが、今までやったことがない試みであったため、誰かに質問することもできず、かなり考えさせられました。その他にも多くの行事や出来事がありましたが、乗り越えられたのは多くの人々の手助けがあったからです。

話は変わりますが、私は最初会長になるかどうか悩んでいました。先代の会長から会長職の話が来た時、今後の大学生活のこと、就職のことなどを考えるとすぐに返事をする事ができなかったのです。親や友人に話をしてみても、「大学生になってまでそんなことする必要はない」という意見がほとんどで、一時期本当に断ろうと考えたこともありました。しかし、心のどこかに「やってみたい」という気持ちもあり、決断できずにいました。結局どうするか答えが出ないまま総会当日を迎え、流されるような形で会長に就いたのですが、就任当初は何をすればいいのか分からず、周りにたくさんの迷惑を掛けてしまったことと思います。ただ、就いたからには精一杯頑張ろうと思い、これまでやってきたつもりです。その日々は楽しいことばかりでなく、辛いこともたくさんありましたが、今は迷いなく、会長職を務めて良かったと言えます。

何が言いたかったのかというと、何事も必ずチャレンジし、経験を積むことが大事ということです。

最後になりますが、この場をお借りし、これまで支えてくださった皆さんには感謝の気持ちを伝えさせていただきます。本当にありがとうございました。



高千穂大学 学友会
会長
大西 洋平
会計局長兼任

この度、第16代学友会会長を務めさせていただくこととなりました、商学部3年の大西洋平と申します

私には学友会会長そして会計局長という職は荷が重すぎるかもしれませんが、任されたからには精一杯努力したいと思っています。

秋学期に行われた学友会総会でお話したことです、第16代学友会では学生の学友会行事への参加を積極的に促したいと考えています。

近年、学生の競技大会・体育祭・六月祭・高千穂祭などの学友会行事への参加率が低くなっています。これは学生が学友会という組織、またその活動をあまり知らないという事が原因だと考えます。そのための活動とし

て、体育会本部・学術文化団体連合会本部・高千穂祭本部・ゼミナール連合本部と協力し学友会活動の周知徹底を行っていこうと考えます。どのように周知を行うか、学友会行事への参加を促すことができるか、具体的な方法については模索中ではありますが、学友会役員・各本部役員共に尽力いたします。

最後となりますが、諸先輩方が築き上げてきた伝統を尊重しこれまで以上に発展させるべく、他の役員と力を合わせて活動してまいります。先生方、事務局の皆様方、父母の会の皆様方、何卒ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。また各団体・各本部の皆様、そして学友会会員の皆様においては、益々のご協力をよろしくお願いいたします。



企画局長
大倉 達也

この度、第16代学友会企画局長を務めさせていただくことになりました、経営学部3年の大倉達也と申します。

企画局は新入生を対象としたクラブ紹介、学内オリエンテーション、春秋に行われる競技大会、その他学友会主催イベントの企画・運営・総括を行っております。

多くの学生が積極的にイベントに参加できるよう学生の声に耳を傾け、それを反映できればと思います。また、今年度は、体育会本部、学術文化団体連合会本部、高千穂祭本部、ゼミナール連合本部等、各本部との連携を取り、各行事の活性化を図ります。企画局一同、尽力いたしますのでよろしくお願いいたします。

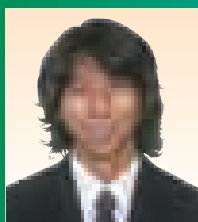


広報局長
平澤 桂介

この度、第16代広報局局長を務めさせていただくこととなりました、経営学部3年の平澤桂介と申します。

広報局の大きな仕事としては、新入生を対象とした部活やサークルなどを紹介する冊子

「ENJOY」の作成等が挙げられます。今後は年に4回学友会新聞を発行し、学校行事や各団体の活動等を掲載していく予定です。また学友会新聞と併せて学校行事の周知活動も行っていきたいと考えております。



書記局長
平野 智也

初めまして！ 自分は第16代学友会書記局長を務めます、人間科学部3年の平野智也です。書記局の仕事内容は、総会や研修会等での先生方、来賓への招待状の送付を行うことや、研修会の会議などでの議事録の作成など、裏方ではありますが学友会を支えています。

またクリーンアップキャンペーンの運営の

仕事も任されています。高千穂大学の清掃運動は杉並区からも表彰されています。なので、第16代ではより一層、学外と学内の清掃に力を入れていきたいと思います。書記局は皆で力を合わせて、仕事に取り組んでいきますので、皆さんよろしくお願いします！



会計監査局長
高橋 宏幸

この度、第16代学友会会計監査局長を務めさせていただくこととなりました、商学部3年の高橋宏幸です。

会計監査局ではどのような仕事をしているのか、わからない方も多くいらっしゃると思いますが、学友会所属の各団体から提出された

決算書類に間違いがないかを確認・監査するのが会計監査局の主な仕事です。年2回の学友会決算報告において、とても重要な役割を担っている局です。他の局にも劣らず、会計監査局員共々協力し頑張っていきたいと考えています。

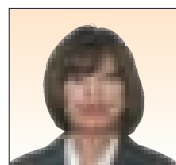
第16代 学友会役員



会長兼会計局長
大西 洋平



副会長
熊坂 翔



副会長
長嶋 藍璃



企画局長
大倉 達也



企画局員
齋藤 紫



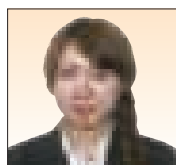
企画局員
綿貫 良成



企画局員
中村 海良



企画局員
星野 貴広



企画局員
深谷 優



企画局員
吉井 リエ



会計局員
宮下 直子



会計局員
越石 浩嗣



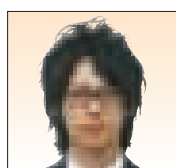
会計局員
大日方 優



会計局員
小林 京介



会計局員
富沢 正男



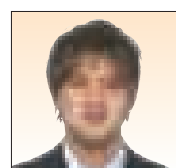
広報局長
平澤 桂介



広報局員
上口 拳



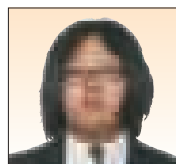
広報局員
安達 明則



広報局員
森 政樹



広報局員
菊地 彩



広報局員
竹森 茂樹



広報局員
小倉 基博



書記局長
平野 智也



書記局員
嶋田 友香



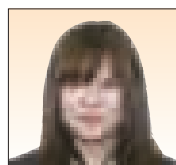
書記局員
大原 佑介



書記局員
熱田 知也



会計監査局長
高橋 宏幸



会計監査局員
花輪 栞



会計監査局員
中山 貴紀



会計監査局員
長倉 里音

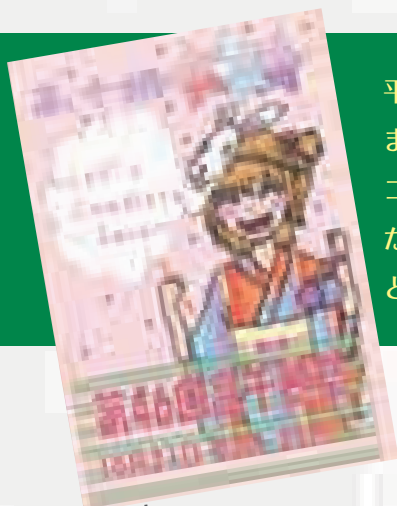


会計監査局員
小林 千瑛

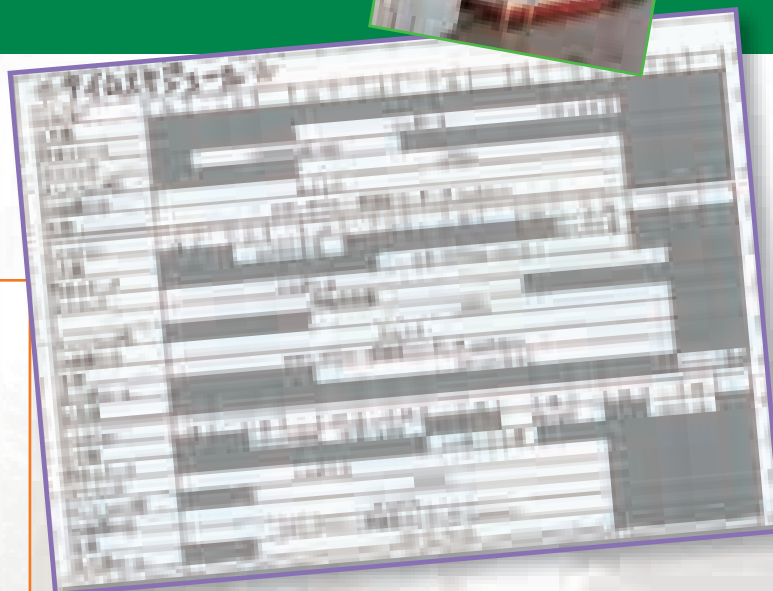


第46回 高千穂祭開催!!

平成23年10月21日（金）～23日（日）に高千穂祭が開催されました。毎年恒例のTAKACHIHO CUPやミス・ミスター高千穂コンテストはもちろん、音三ライブにカラオケ大会など盛りだくさんのイベントを開催しました。皆様のご来場ありがとうございました。



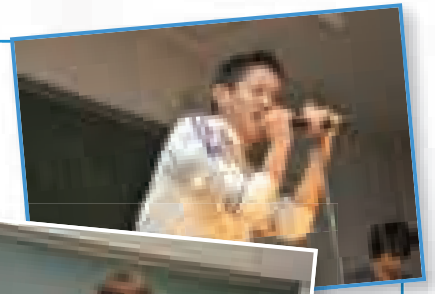
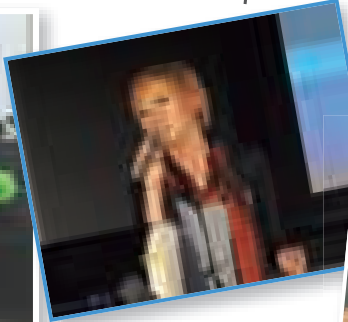
模 擬 店



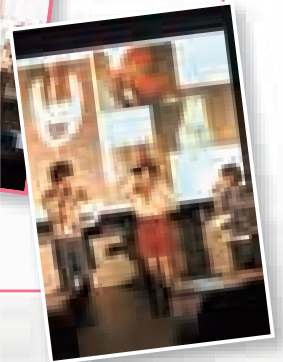
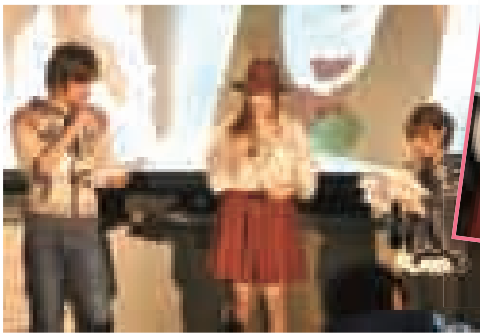
ビンゴ大会



ライブ&ステージパフォーマンス



Handsome man&Beautiful Woman Contest 2011



そのほかにも…



フィッシュセラピー

スーパーボール
すくい

シャボン玉

高千穂祭を終えて……………第46回 高千穂祭実行委員長 大西 洋平

第46回高千穂祭を振り返ると、あっという間の1年間でした。私たち高千穂祭実行委員会は、高千穂祭本番に向けてイベントの企画・運営をこの1年間行ってきました。

今年度の高千穂祭実行委員会には多くの新入生が入り、総勢50人を超える大人数で活動を行うことができました。日々の活動を通じ連帯感が生まれ、実行委員同士が協力し団結したことで第46回高千穂祭は成功したと思います。

昨年度よりも多くのお客様にお越しいただき、3日間の来

場者数は約3000人となりました。また、SEAMOのコンサートやお笑いライブも多くのお客様にお越しいただき、例年よりも一層高千穂祭が盛り上がったと思います。

高千穂祭本番では大きなトラブルもなく、また大勢の来場者の方々が高千穂祭にお越しいただけたことを大変喜ばしく思います。

来年度は、今年度以上の高千穂祭が出来上がることを期待しています。

ここでは、「OB インタビュー」として高千穂学園の同窓会誌「TAKACHIHO」から記事を転載してご紹介することといたしました。この記事は、同窓会誌「TAKACHIHO」に連載中のものですが、各界で活躍する本学 OB ヘインタビュー形式で取材したもので、再編集せずにそのまま抜粋・掲載したものです。多彩な卒業生へのインタビューは、在学生にとって何らかのヒントになるかもしれません。この記事から先輩たちの生き方を見だし、自らの糧としてください。

公認会計士・山本三雄彦さん（昭和58年3月卒業・名古屋市在住）に聞く 頭で勝負する世界に ～趣味はセスナ機の操縦～

——公認会計士の仕事はどんなものですか

山本 利害関係者の経理的な判断資料となる決算書類について、正しいかどうかを証明すること。いわば財務諸表に対する裁判官のような立場の仕事です。

また、本来業務を基本として税務実務や各種コンサルティングなど幅広い分野で活躍できる仕事があります。

39歳で独立開業

——公認会計士を志したきっかけは

山本 大学時代に牛井屋など体力勝負でアルバイトしていた際、何時間も連続で働いてもお金にならず、体でなく頭で勝負したほうが良いと思ったからです。年をとればとるほど体力は低下するけど、知力と経験は上がるので「お金も稼げるかな」と不純に考えて志しました。

——資格を取って現在に至るまで、どのような道のりでしたか

山本 資格取得後は、名古屋市の新日本監査法人に就職しまして、監査、株式公開支援業務、連結体制支援、税務戦略策定など10年ほどお世話になり、39歳で独立開業しました。14年目でスタッフ4名と小規模ながら提案型の質的に高い水準を保った事務所と自負しています。

——公認会計士をやってうれしいこと辛いこと

山本 株式公開準備業務で上場に成功し、会社にご感謝されたときはうれしかったですね。

しかし監査は基本的には「あら探し」であることを否定できないため、監査業務を真剣にやればやるほどつらかったです。監査は社会的には重要な仕事だと思いますが非常にストイックでその傾向はますます加速していきます。

感謝される会計士目指して

——将来、どんな公認会計士を目指しますか

山本 日本は非常に精神性の高い国民で、将来は世界のいろいろな国の仲介をすることが使命だと考えます。それに協力でき、人々に感謝される公認会計士を目指したい。

それは、想定外の価値観においても監査の手法を用い数字を根拠とした具体的提案力を持ちたいという意味です。

原点を学ぶ

——学生時代を振り返って

山本 大学では高木尚一・名越二荒之助・福井守の諸先生にお世話になりました。

先生方主催の勉強会は強烈に印象に残っています。

政治的でなく、「日本は本当にそれでいいのか」と、真剣に討論した覚えがあります。小手先の勉強でなく「原点」を学んだ学生生活だったような気がします。

——今一度、学生生活をする機会があったら

山本 世界中のいろいろなところを一人旅してみたい。

そして、価値観の違うさまざまな人と出会いたいですね。たくさんの本を読んで自由に考え友人と議論し体を動かし、自分の根っこの部分をつくる学生生活をしたいですね。

——趣味は

山本 飛行機に乗ることです。今年、念願の日本免許を取得したので、現在は名古屋から南紀白浜、神戸、城崎温泉、伊豆大島、芦原温泉などセスナ172機で日帰りフライトを楽しんでいます。

また、夜の都会の遊覧飛行も夢のような美しさです。

全国の飛行場に

——いまやってみたいこと

山本 仕事面では、非現実的ですが、国家破綻、原発事故など想定外の事象に対して公認会計士としての監査を行い、長文式報告書として意見をのべてみたいです。

趣味の面ではセスナで全国のすべての飛行場に着陸してみたいです。そして、その飛行場を中心に温泉、その土地の料理、お酒をたのしみたいですね。

（インタビュー・吉田孝一）



父母の会

福島県支部郷土企画 今年は郡山の「三万石」

～昨年の「麦せんべい」に続き～

父母の会福島県支部 副支部長 宗像 住孝

「お待たせいたしました。ただ今から福島県支部によります郷土企画を開始いたします。」と声を掛けると多くの学生たちがどっと寄ってきます。一年に一度の郷土企画、今年は昨年の麦せんべいに続き、郡山の三万石の「ままだおる」というお菓子。ミルク味とチョコ味の2種類を計600個用意いたしました。当日は、ゼミ発表日ということもあり、また就職活動の時期でもありスーツ姿の学生や食堂でゼミの続きをする学生などその雰囲気も様々でした。1人1個と少ないこともあり、山のようになっていた「ままだおる」もあっという間に提供終了。今年は、東日本大震災で大きく揺れ、津波での被害に加え、原発事故による放射能の拡散による被害、さらには風評被害と福島県にわたり大きなダメージを受けました。しかしそんな中、高千穂大学での郷土企画では、福島県出身者は勿論、学生の中には南相馬へ来てくれた学生など県内各地を震災後のボランティア活動で訪れ、がれきの片付けなどしてくれたなどの話をして、極めつけは「福島大好きなんです」の一言には、感動をしました。郷土企画としてお菓子を提供に行ったはずが、逆に学生の皆さんから勇気と元気をいただきました。「おいしかったです。」「もう1個食べたかった」などのうれしい言葉をお土産に帰路につきました。ご協力いただきました、大学関係者のみなさま、また参加いただいた方々に感謝申し上げ報告いたします。



学生一人一人に手渡し



福島県支部役員の皆様



今年度実施した郷土企画ポスター（一部）

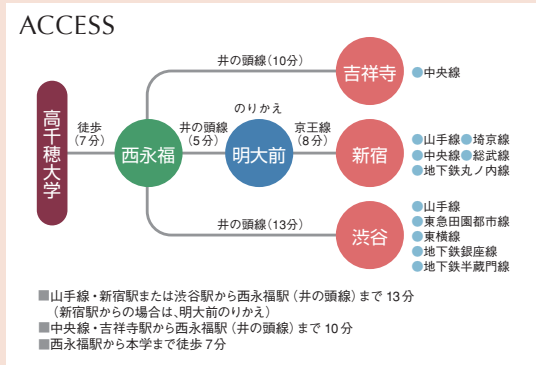
編集後記

▼新年あけましておめでとうございます。新年号のクォーターリー高千穂35号をお届けします。▼昨年は3月の震災・原発事故以来、不安な日々を過ごした人が多いと思います。それでも少しずつ復興へと気持ちを前向きにして、一步一步、半歩ずつでも進んでいかなければなりません。高千穂の学風の指針である「常に半歩先立つ進歩性」を今一度思い出して進んでいきたいと思います。▼大学でも春学期は学外オリエンテーションの中止や施設の修繕など大きな影響がありましたが、秋学期には高千穂祭やゼミ発表会などの行事を無事終え、1月は補講・定期試験が行われます。体調管理に気をつけて万全の態勢で試験に臨んでください。▼今年一年が皆さんにとって良い年となることをお祈り申し上げます。（編集室）

編集委員

- 編集長 古崎信彦
- 委員 高橋 拓
- 深津 剛





CAMPUS MAP



 ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC™ C004698